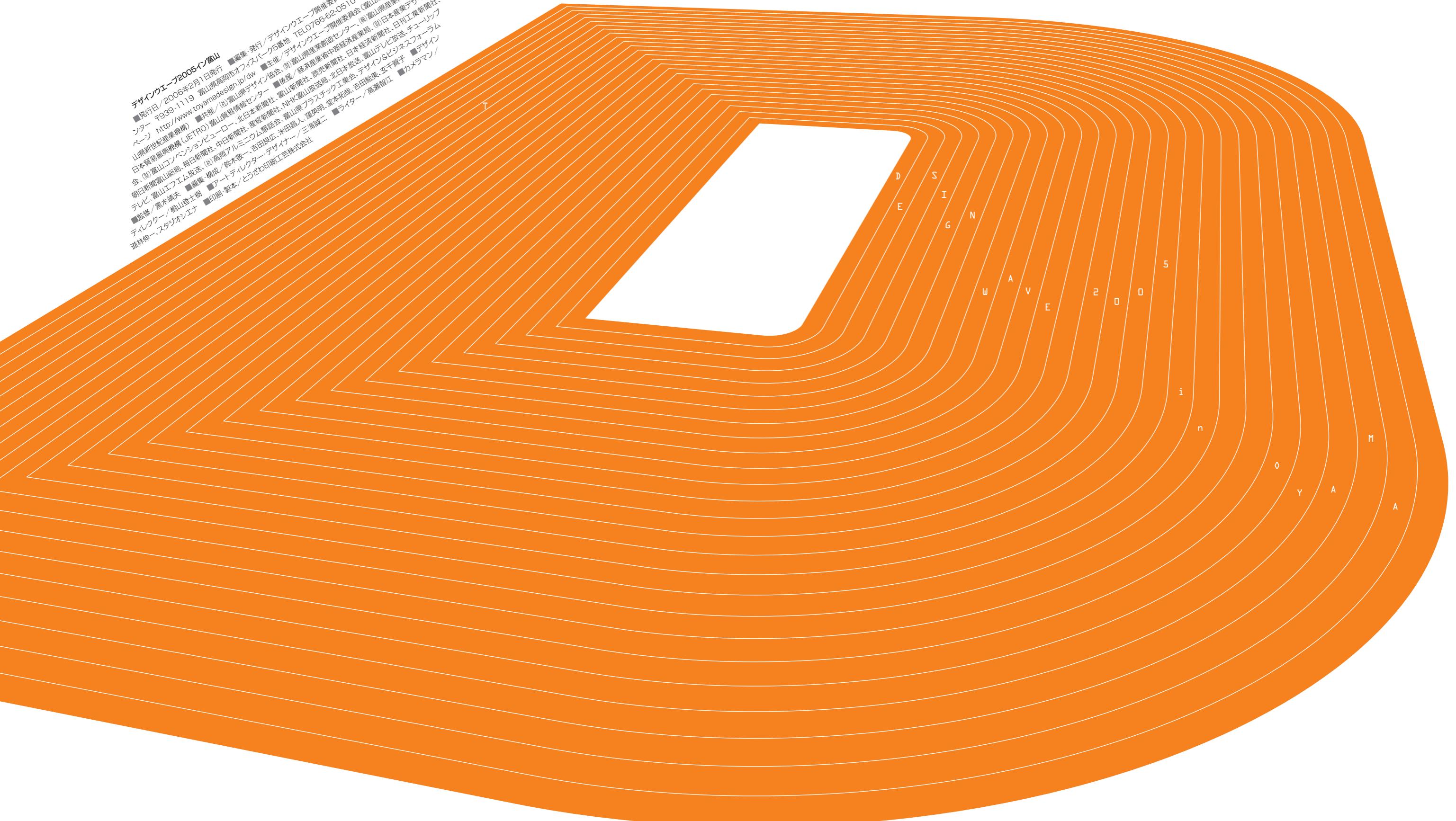


■デザインウェーブ2005イン富山 ■発行日/2006年2月1日発行 ■編集/発行/デザインウエーブ開催委員会 ■事務局/富山県総合デザインセンター TEL0766-62-0510 FAX0766-63-6830 ホームページ http://www.toyamadesign.jp/dw ■主催/デザインウエーブ創造センター、(富山県、富山市、高岡市、射水市) ■後援/経済産業省中部経済産業局、(日本経済新聞社、日刊工業新聞社、朝日新聞富山局、毎日新聞社、中日新聞社、産経新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、NHK富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山エフエム放送、(社)高岡アミニユム懇話会、富山県プラスチック工業会、吉田良広、米田昌人、猪更明、堂本哉哉、吉田恵美、安千賀子 ■監修/黒木博夫 ■編集・構成/鈴木敬一、吉田良広、米田昌人、猪更明、堂本哉哉、三浦誠二 ■ライター/高瀬智江 ■カメラマン/道林伸一、スタジオエナ ■印刷・製本/どうざわ印刷工業株式会社 ■監修/桐山登士樹 ■アートディレクター/デザイナー/三浦誠二 ■印刷・製本/どうざわ印刷工業株式会社



Design Wave 2005 in Toyama

会期:2005年10月26日(水)～11月7日(月)

会場:富山県産業高度化センター展示室

富山県では、企業のデザイン開発力の向上やデザイナーの支援などに積極的に取り組み、様々な事業を企画・展開しています。中でも「デザインウェーブ」は、“富山から世界へ発信するデザインムーブメント”として1993年から始まったデザインイベント。私たちはこれまで、プロダクトデザインコンペティションを中心として、ワークショップ、デザイン関連の展示会、デザインセミナー、ものづくり見学ツアーといった多彩な企画に取り組み、本事業からの商品化も実現しています。また、国内外のデザイナーとのネットワークも構築されつつあり、地元産業の優れた製造技術を生かした商品開発や各種デザインプロジェクトのコーディネートにも積極的に取り組んでいます。

12回目の開催となる今年度は、さらなる飛躍を目指した「富山プロダクトデザインコンペティション2005＜スペシャルエディション＞」をはじめとして、国内外クリエーターによる「ワークショップ作品展」「イタリアデザインのニューパラダイム展」を企画・開催。

このほか、デザイナーとプロデューサーのコラボレーションをテーマにしたデザインセミナー、県内企業を訪ねるものづくり見学ツアーなどを実施しました。これからも、これまで以上に幅広い活動に取り組み、デザインウェーブから新たな「Design」を発信していきたいと考えています。

Message from デザインウェーブ開催委員会

CONTENTS

富山プロダクトデザインコンペティション2005	03
デザインセミナー	17
ワークショップ ガラスとアルミのプロダクト	19
イタリアデザインのニューパラダイム展	23
ものづくり見学ツアー	27





TOYAMA PRODUCT DESIGN COMPETITION 2005

富山プロダクトデザインコンペティション2005
〈スペシャルエディション〉

TOYAMA PRODUCT DESIGN COMPETITION 2005



26組の招待デザイナーによる指名コンペティション形式
〈スペシャルエディション〉

日本有数の産業集積地である富山の地場産業の力を活かした「とやまブランド」の創出をめざす「富山プロダクトデザインコンペティション」。他のコンペとは一線を画した「商品化をめざすコンペ」として広く知られ、これまでに数多くのとやまブランドを市場に送り出してきました。12回目となる今回は〈スペシャルエディション〉として、才能と力量のある26組のデザイナーを招待する指名コンペティション形式を採用。過去11回のコンペティションの上位入賞者、ここ1~2年に国内外のコンペティションでグランプリを受賞された方々の中から26組にご参加いただきました。そのねらいは、一層の商品化の可能性を探ること、そして

優れたデザイナーと富山の産業界の結びつきをより強固なものにすることにあります。

テーマについても、例年はカテゴリーや機能、シチュエーションなどが細かく指定されていたのに対し、本年度は「大切にしたい美しいデザイン」という大きな概念を設定しました。これには、プロダクトデザインに関する一人ひとりの考え方や理念、マーケティングに対する姿勢、社会の様々な事象や問題への意識などが、よりダイレクトにコンペ作品に反映され、より新鮮でオリジナリティーの感じられるデザインを広く求めたいという意図が込められています。

招待デザイナー



10組・11作品の公開プレゼンテーション 「大切にしたい美しいデザイン」とは?

2005年10月26日、ホテルニューオータニ高岡(4階瑞龍)において「富山プロダクトデザインコンペティション2005」の最終選考会が行われました。会場には学生やデザイン関係者など、県内外から約120名が集まり、熱い視線が注がれるなかで、第一次選考(9月13日)を通過した招待デザイナー10組による11作品の公開プレゼンテーションがスタート。コンセプト、素材のセレクト、具体的な使用例などをデザイナーならではの効果的な方法でアピールしていただきました。また、今回は「大切にしたい美しいデザイン」という大きな概念でのテーマであったため、「美しさ」に対するさまざまな視点、感じ方、表現方法などに、デザイナーそれぞれの個性が反映され、とても興味深いプレゼンテーションとなりました。

約1時間半にもおよぶプレゼンテーション・質疑応答の後、審査員がコンセプトやデザインの新規性、市場性、生産性などの要素

を公開で検討。選考の結果、最も得票数の多かった澄川伸一さん(東京都)の「機能を持った床」が【とやまデザイン賞】に決定。【準とやまデザイン賞】には大友学さん(東京都)の「BOUQET」、三浦秀彦さん(神奈川県)の「Cloud/Equivalent」。そして、デザインシップ虎(福岡県)の「FLOOR FLOWER」が【審査員特別賞】に選ばれました。入賞作品については、これから商品化に向けて、製造から流通までさまざまな検討を行っていきます。これまで11年間、公募コンペティション+招待デザイナーの形式でコンペティションを実施してきた私たちにとって、今回のスペシャルエディションは新たな試みであり、また大きな期待でもありました。ここからまた、日本のプロダクトデザインの未来をデザイナーと地場産業界が一緒に考えていける機会を作っていくたいと考えています。



4月
課題テーマを決定
商品開発研究会参加企業とともに課題を検討。テーマや素材などを決定。

6月
指名デザイナーを決定
本年度は、才能と力量のあるデザイナーを招待する、指名コンペティション形式を採用。

**9月10日締切
作品提出**
招待デザイナー26組より、計28点の提案。

9月13日
第一次選考(パネルとモデル)
安藤氏、近藤氏、名堀耶氏、廣田氏、黒木による投票選考。
11作品を選出。結果は通過者に郵便およびメールで通知。

10月26日
最終選考会(プレゼンテーション)
デザインウェーブ開催初日、最終選考に残った11作品についてデザイナーによるプレゼンテーションを、ホテルニューオータニ高岡にて公開で実施。審査員による質疑などを経て投票選考。とやまデザイン賞1点、準とやまデザイン賞2点、審査員特別賞1点を選出。その後、受賞式と交流会を開催。

10月26日～11月7日
作品の公開・展示
応募作品28点を富山県産業高度化センター1F展示室で展示。

11月～
商品化検討
商品化に向けてデザインセンター、県内企業、デザイナーと具体的な検討をスタート。改良を加えたモックアップの作成、コストの算出、価格設定や流通経路開拓を行う。

2006年2月
報告書発行
コンペをはじめデザインウェーブで実施した展覧会、ワークショップなどをまとめた報告書を作成、発行。



近藤 康夫 インテリアーキテクト

1950年東京生まれ。73年、東京造形大学造形学部デザイン学科室内建築専攻修了。ブティック・オフィス・ショールーム・物販店・飲食店・住宅・公共建築などのインテリアデザインをメインに手掛ける。また建築、インテリアプロダクトの商品化にも携わり、03年、自らデザインした家具のメーカー「AB design」を設立。著書に「インテリア・スペース・デザイン」「AB design」など。

Yasuo KONDO



Hideyoshi NAGOYA

黒木 靖夫 富山県総合デザインセンター所長

1932年富崎県生まれ。57年、千葉大学工学部工業意匠学科卒業。ソニーにてデザイン開発に携わり、ウォークマンなどヒット商品を生み出す。90年、ソニー企業代表取締役。93年、(株)黒木靖夫事務所設立、富山インダストリアルデザインセンター所長。99年より富山県総合デザインセンター所長。

Yasuo KUROKI

プロダクトデザイナー 廣田 尚子

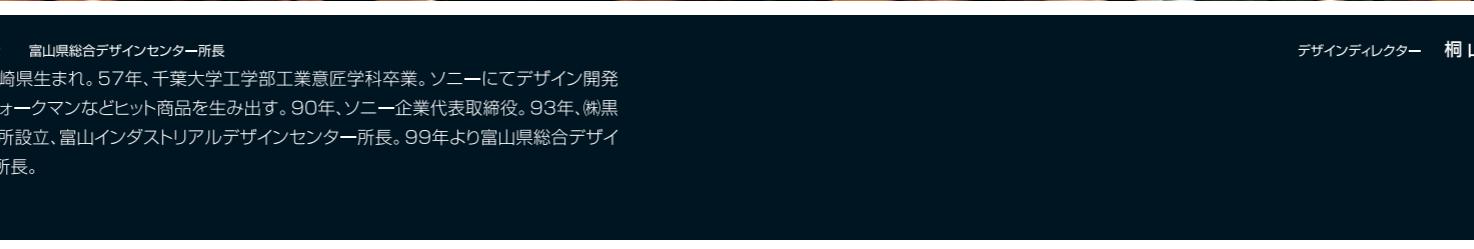
1965年東京生まれ。90年、東京芸術大学デザイン科卒業。株GKインダストリアルデザインを経て97年「ヒロタデザインスタジオ」設立。ファッションアクセサリーをプロダクトデザイン領域に取り込んだオリジナルブランド「NAOCA」を設立。カテゴリーに捕らわれない幅広いデザインを目指して活動中。「NAOCA」のバッグはMoMAでも販売。



Naoko HIROTA

安藤 貴之 Pen編集長

1965年東京生まれ。明治大学政治経済学部卒業後、新聞記者、ビジネス誌の編集者を経て、TBSブリタニカ(現・阪急コミュニケーションズ)に入社。97年に男性向けライフスタイル・マガジン「Pen」創刊に携わり、副編集長を経て05年4月から編集長。プロダクト、グラフィックなどデザイン関連の特集記事を数多く手がける。



デザインディレクター 桐山 登士樹

Toshiki KIRIYAMA

comment from judges

会期:2005年10月26日(水) 会場:ホテルニューオータニ高岡4F(瑞竜)

■廣田 美しいものをどうとらえるかという時、私は、それを行ふとしてとらえ、デザインとしてモノに映し込むといったようなプロセスを考えている人に、共感をおぼえました。大友さんの「BOUQUET」は、花束に込められた心、花束を贈る行為をそのまま残して空間にとどめておきたいというところに、とても好感が持てます。桐本さんの「ZAN【斬】」は、一輪の花の存在 자체を生命としてとらえ、変化する空間の中でどう見せるかということに重点が置かれていたように思いました。それがまた新しい美しさとなって変化していくところに興味を持ちました。全体的に、置いて楽しむものや眺めて空間をあたたかくするデザインが多く、プロダクト製品として果敢にトライする姿勢が強く感じられたのが、佐藤さんの「ShakeLight+」。2つの光源があつて機能的にも優れていたと思います。中林さんの「kirie【切り絵】」は、二次元、三次元の考え方や「切り口」という存在への着眼点がとても新鮮でした。三浦さんの「Cloud/Equivalent」は、人の思考をカタチと結びつけていった象徴的な作品。他の方と全く違うアクセスをしていること自体が、プロダクトという考え方で幅広さを感じさせてくれて、興味深かったです。中でも澄川さんの「機能を持った床」は、大変美しく、シリーズ化の可能性があるという点も高く評価しています。

■安藤 どれもすばらしい作品ばかりでしたが、僕は二つのテー

マで選考しました。一つは自分の生活に足りないものを補ってくれるプロダクト、もう一つは、本能的に美しいなと思えるプロダクトです。この主旨で3つに絞りました。まずは、デザインシップ虎さんの「FLOOR FLOWER」。これは、とにかくプロポーションが良い。自宅の玄関に置きたいと思いました。それから佐藤さんの「ShakeLight+」。ベッドサイドに置いたら便利だろうな、美しいだろうなと思いました。そして、大友さんの「BOUQUET」。ちょっとした地震でも倒れてしまうのでは?という話も出ましたが、僕は花束の形をした花瓶というロマンチックな発想がとても気に入りました。

■名児耶 「大切にしたい美しいデザイン」に、究極の難しさを感じますね。美しさへの思いは、人それぞれだから、プレゼンテーションを聞いて、実はすぐ混乱します。意図はすべて理解できるし、共鳴もできる。誰が何を美しいと思っても自由だと感じたし、最終選考に残ったものだけでなく、私にとってはすべての作品が美しいと感じました。その中から、あえて「商品化」を前提に選ぶとすると、一つは大友さんの「BOUQUET」。花束を贈る人の気持ち、人ととの関係をそのまま表現して美しく保っていきたいというデザインには、私もとても興味を持ちました。それから、澄川さんの「機能を持った床」。床という、今までつい忘れられている部分に美しさを表現したこと。しかも傘を立てた

り、花を生けたりすることができるところに共鳴しました。中林さんの「kirie【切り絵】」も良かったですね。三浦さんの詩的なプレゼンも良かった。デザインシップ虎さんの作品も、光で花を表現するなんて「やられた!」と感じました。特に澄川さん、大友さんの作品は富山のことをすぐ考えていました。でも、富山=ガラス、金属みたいになってしまふのもどうなのかな、とも思います。

■近藤 客観的ではなく、主観的に「美しい」と言い切れるものを、モノを作る側の人間がどれだけ提案できるか。プレゼンでは、言い切る力と、提案するモノがどういう美しさを表現し、どういう付加価値を持っているのかということを私なりの選考基準にしました。気になったのは、まず大友さんの「BOUQUET」。ブーケをそのまま生けるという大胆不敵ともいえる発想を美しさに変えてしまうという考え方がとてもいいなと思いました。それと、三浦さんの「照明ではない」というプロダクト。モノを作る人間はあのくらいツッパらなきゃダメだなあというのがすごく感じられて、久しぶりに手応えのあるプレゼンでした。それと、デザインシップ虎さん。最近、形をいじるデザインというのは、なぜか否定的に見られる傾向があるんですが、私はオブジェとしても大変美しいと評価しています。商品化という点で推すなら、澄川さんの「機能を持った床」。日常、私の仕事は90%以上が空間。床、壁、天井という三次元で区切られた世界を相手にしていますが、なくす

ことだけが美しさではないし、モノがあつても美しいものがあるんじないかと思っています。そういう意味で言うと、玄関などの空間にタイル状のモノが置かれ、それがある種の機能をする。美しさを与えるということで、とても共感をおぼえました。

■桐山 私も、中心を上に引っ張りだすという傘立ての造形の妙味、富山ブランドへの進展などを考えて澄川さんの「機能を持った床」が素晴らしいと思います。それと、私が第一次選考からずっと見てきて、なるほど、そういう着眼点があったのかという思いを持ったのは、大友さんの「BOUQUET」。フォルムそのものの存在感とか、伝わってくるものがありました。三浦さんの「Cloud/Equivalent」ですが、プレゼンを聞いていて、こういうコンペには、何らかのメッセージ性も必要なんだなと感じました。デザインシップ虎さんに関しては、これまでとても良い提案をしていただいている。ただ、商品化するまで2年、場合によっては手を上げてしまう可能性もあるという気がしています。

【とやまデザイン賞】の澄川伸一さん、【準とやまデザイン賞】の大友学さん、三浦秀彦さん、【審査員特別賞】のデザインシップ虎さん、おめでとうございます。審査員の方々、参加者の皆さん、そしてすばらしい提案をしていただき、いろいろな機会を我々に与えてくださった26組のデザイナーの皆さんに感謝を込めて、この選考会を終了したいと思います。ありがとうございました。

とやまデザイン賞



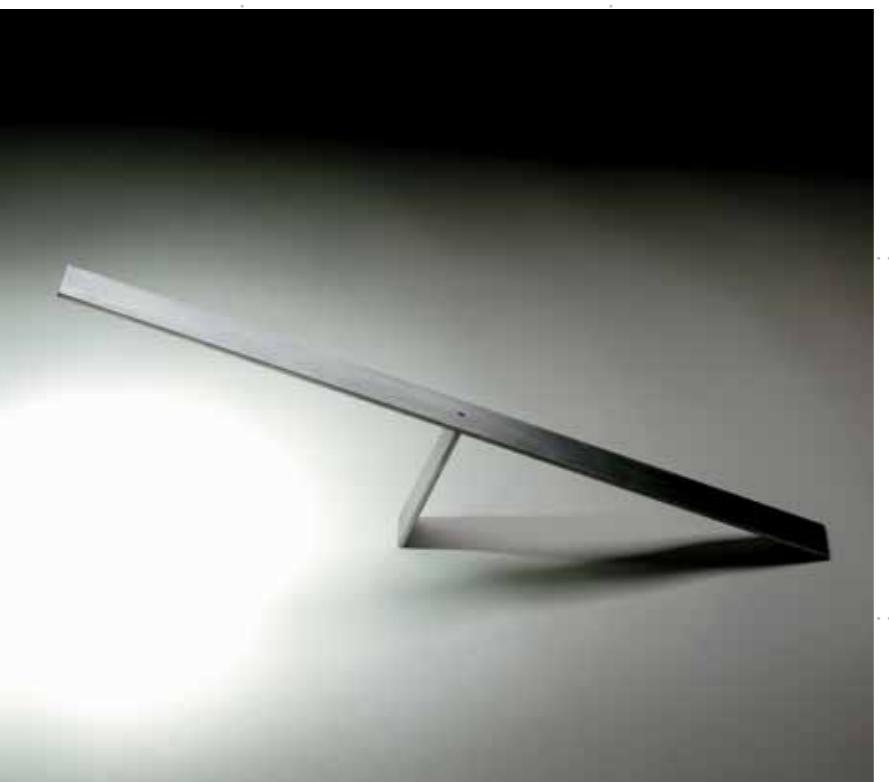
- 傘立て、花瓶という機能の先に、さらなる発展性が期待できる。(廣田)
- 素材の重力を利用し、置くだけで美しさが表現されている床。(名児耶)
- 120というモジュールは商品化の際に一考が必要と思われる。(近藤)
- 中心を上に引っ張り出すという造形の妙味。(桐山)

機能を持った床

傘立てを置くのではなく、床面が傘立てである。花器を置くのではなく、床面が花器である。ステンレス鏡物、アルミFA、ガラスなど水に強い材質を想定しています。単品でも使って、レイアウトは無限大です。



澄川伸一 Shinichi SUMIKAWA
1962年東京都生まれ。84年に千葉大学工学部工業意匠学科卒業後、ソニー株式会社入社。87年ソニーニューアメリカデザインセンター勤務。92年に半年間の世界一周を経て独立。Gマーク審査員。二級建築士。インターナショナルデザインイヤーブック作品収録1995/97/98/99/2001



準とやまデザイン賞

準とやまデザイン賞

- プロダクトという考え方方に広がりがある。ただし、商品展開に難しさも(廣田)
- 詩的なプレゼン。うつりするような造形。「照明ではない」という斬新なプロダクト。その考え方にも引かれた。(近藤)
- ある種のメッセージ性が感じられたデザイン。(桐山)

Cloud/Equivalent

全体をシーソースイッチのように切り替えることで電源をON/OFFする。機器全体をアルミで構成することにより、全体をヒートシンクとして機能させ、コンパクト、薄型の特徴を活かした造形が可能となった。表面は、手作業によるスクラッチで仕上げた。曇昧に鈍く光る面は、雲や光りを反射する海面を連想させる。アルミは、機能的な素材であるだけではなく、詩学を生む力を持つ。プロダクトは、一篇の詩でなくてはならない。



三浦秀彦 Hidehiko MIURA
1966年岩手県生まれ。英国ロイヤル・カレッジオブアート(RCA)で学んだ後、2000年クラウドデザイン設立。90年代より地平線や地形、大気をテーマに身体性やイングラクションを意識したインスタレーションを発表。日常の中にある創造性や意象と現象の関係性を思考している。



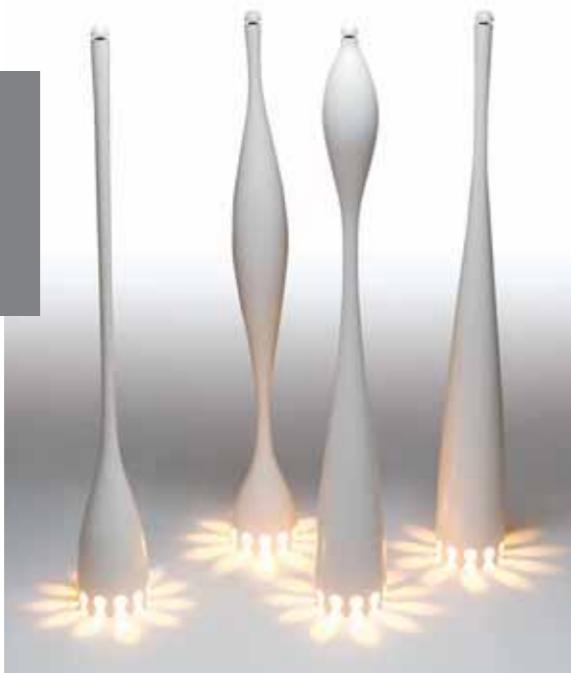
BOUQUET

誰もがプレゼントされて嬉しい花束。
生けるのが上手でない人もだいじょうぶ。
花束そのままの形で移せます。
もらってうれしい気持ちもそのままに
生けることが出来ればいいなあ。
自然と人とプロダクトのつながる関係。
花束のかたちのフラワーベースです。



大友 学 Gaku OTOMO
1978年生まれ、東京都出身。バンタンデザイン研究所、インテリアプロダクト学科卒業後、01年フリーランスに。01~03年富山プロダクトデザインコンペティション入選、デザインコンペティション海南03入選、第1回セキスイプロダクトデザインコンペティション準グランプリ、05年グッドデザイン賞4点受賞。

- 贈るという美しい行為をデザインに映し込んでいて、好感度が高い。(廣田)
- 花束のような形をした花瓶……口マンチックな発想が秀逸。(安藤)
- 人ととの関係がデザインの中で美しく表現されている。(名児耶)



○存在感が大きいのに、光がとても繊細。見せ方も新鮮。(廣田)
○本能的に感じた美しさ。プロポーションが美しい。(安藤)
○配線にやや問題があるが、バランスはとても良い。(名児耶)

FLOOR FLOWER

空間を彩る、あかりの花。
くつろぎの時間を楽しく演出します。
手軽に持ち運び、お気に入りの場所に咲かせてください。



デザインシップ虎

Designership TORA
参加メンバー：中嶋尚孝／山口由晃／宗像友昭
安田大悟／木下百合子／西山好／中庭日出海
第6回SOFUチェアーデザインコンペティション金賞、2004年天童木家具デザインコンクール入選、第6回福岡産業デザイン賞大賞、国際デザインコンペティション大阪04優秀作品、ボンベイサファイア・デザインコンペティション05優秀作品、国際家具デザインフェア旭川05入選、The 5th International Hettich Furniture Design Award 9位入賞、第1回セキスイプロダクトデザインコンペティション特別賞、第9回飛騨・高山学生家具デザイン大賞金賞。



壁箱

今回ご提案させて頂く商品は、環境や空間に対して個の単位で扱うのではなく、置かれる環境や空間の一部として存在させるごみ箱です。既存の空間を構成する壁面を活用し、相対的な関係の上で物を単純化させて空間の中で位置づけます。個としての意匠美ではなく、互いに他との関係をもち合って成立・存在するデザインこそ「大切にしたい美しいデザイン」だと思います。



馬場威彰 Noriaki BABA

1972年東京都生まれ。
97年多摩美術大学美術学部プロダクトデザイン専修卒業。2002年よりsnQ design活動開始。



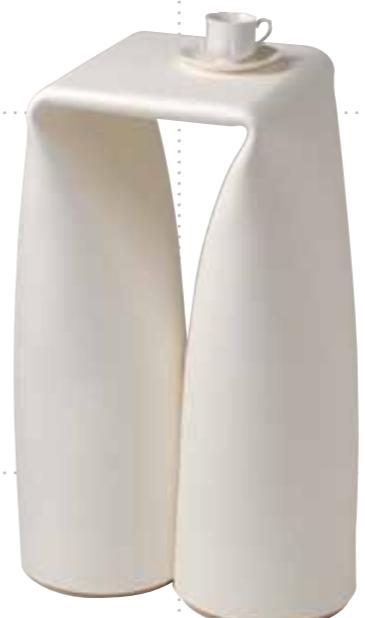
screwdriver

インテリアに溶け込む家庭用ドライバーの提案。
①部屋に飾っておけるような愛着のあるデザイン。
②本体にアルミを使い、ついでに触っていたくなるような高級感のある質感。
を加味し、いつまでも大切にしたい美しいデザインのプロダクトになるようなドライバーを目指しました。



渋谷哲男 Tetsuo SHIBUYA

現在、セールスプロモーション関連と生活雑貨のデザインを中心活動中。



Penguin Table

美しいという概念は個人的なもので、とても押し付けることができません。できるだけ多くの人と共有できる美しさとは、たぶん自然に関わることだと思います。このペンギンテーブルは意図的に「作る形」ではなく「出来る形」を目指しました。



梶本博司 Hiroshi KAJIMOTO

1955年兵庫県生まれ。多摩美術大学立体デザイン科卒業後、家電メーカーでプロダクトデザインを担当。91年梶本デザイン設立。家具、プロダクトデザインなどさまざまなデザインを手掛ける。
2003~05年ミラノサローネ、サテライト出展。



ZAN [斬]

花を主役に考えた一輪挿しが意外と少ないように思われます。この一輪挿しは、花を生けたときに初めて成り立つようにデザインしました。花がそこでどう見えるかにとどまらず、その行為全体をデザインのモチーフとして考えました。生けるという行為は小さな命をそこに移すということ…さらに、このように切り取ってきた自然の一部から、そのものよりも大きな世界を楽しむということです。実際に日本の自然の楽しみ方です。また繊細で美しい出来事です。そのあたりをそのままに感じてもらえるようにデザインしました。



桐本隆士 Toshiaki KIRIMOTO
1973年香川県高松市生まれ。96年武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業、05年同大学院修了。
96年第1回リビングデザイン賞入選、05年国際家具デザインフェア旭川2005デザインコンペティション(IFIIDA2005)にて、日本人初のゴールドリープ賞受賞、ネクストマルニ2005コンペティション入選。



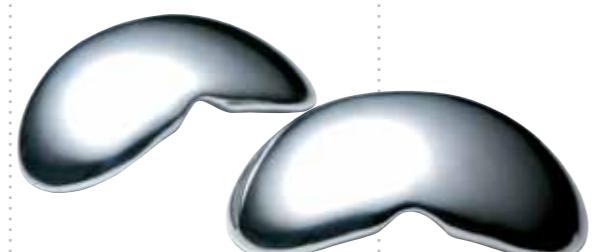
ShakeLight+

30秒振ると5分間点灯し、そのあとゆっくり消えていきます。電池や電球の交換の必要がなく、うそそくのようやさしいあかり。もしものときは懐中電灯にもなります。枕元にいかがでしょう。



佐藤徹 Toru SATO

電機メーカーでデザイン部を経て、日本大学芸術学部デザイン学科専任教師。現在も家電製品、医療機器、家具、照明等の製品デザインを手がける。1999年デザインユニットNOL結成。名古屋デザインコンペグランプリ/デザインウェーブ富山部門最優秀賞、他入賞多数。



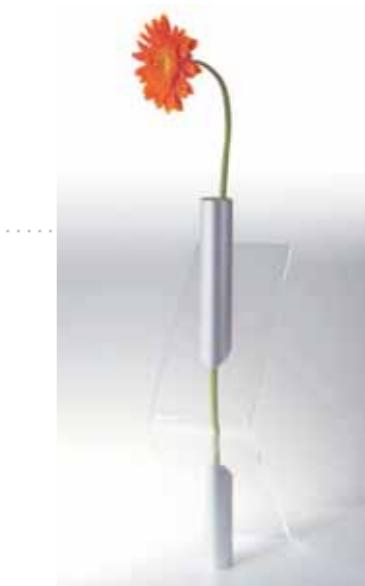
アルミニウムひんやりマスク

重たく、冷たい金属の性質を応用して、指圧・冷却効果をもったアイマスク。長時間のパソコン作業、渋滞時の運転等で疲れた目を適度な圧力で指圧・前頭葉を冷却します。ドライアイを防止し、リフレッシュ効果もあります。顔にフィットする三次曲面で設計しております。



澄川伸一 Shinichi SUMIKAWA

1962年東京都生まれ。84年に千葉大学工学部工業設計学科卒業後、ソニー株式会社入社。87年ソニークリエイティブデザインセンター勤務。92年に半年間の世界一周を経て独立。Gマーク審査員。二級建築士。インターナショナルデザインイヤーブック作品収録1995/97/98/99/2001



kirie【切り絵】

モノやコトの切り口は、意外な表情を見てくれる。中が空洞であるパブリカ(ピーマン)のように…。照明器具を一刀両断にしてみると、断面が見えてくる。灯をつけた時のシルエットは切り絵のよう。背中を平らにした「フラット・バック」なデスクスタンド。壁に沿わせて置きたいときは、ぴったり寄せてラッケント風。直下に落ちる光の下は、ディスプレイエリア。クロックやフォトフレーム、ポケット中の小物のためのスペース。



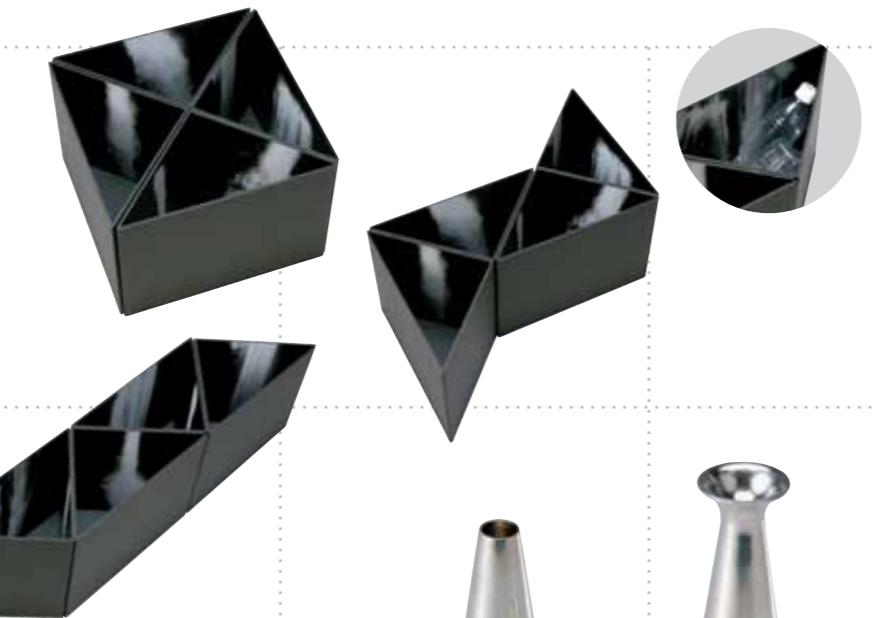
中林鉄太郎 Tetsuro NAKABAYASHI
1965年東京生まれ。88年桑沢デザイン研究所リビングデザイン科卒業後、株式会社黒川雅之建築設計事務所に入社、プロダクトデザイン部を担当。97年同事務所を退社、独立しテツタロウデザインを設立。2005年より、日大藝術学部IDコース非常勤講師。JIDA会員。

Infalls

滙を見ている時の、滙の中に吸い込まれるような感覚と、ゴミを捨てる時の、ゴミ箱の中にゴミをポイと捨てる感覚を重ねあわせた。ゴミ箱の前で対比される2つの感覚。それらのシンクロする部分、違う部分を見つめる。幾つも組み合わせることで滙つの集合のような風景が室内に出現し、またその複数のゴミ箱の組み合わせがゴミの分別に対応する。



福間祥乃 Yoshino FUKUMA
1974年生まれ。98年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。2000年同大学院修士課程修了。02年東京大学大学院学際情報学府佐々木正人研究員課程修了。05年現在、同博士課程在籍。デザインは環境を作ることと感じアフォーダンス(生態心理学)の観点から街にある視覚情報の研究をする。

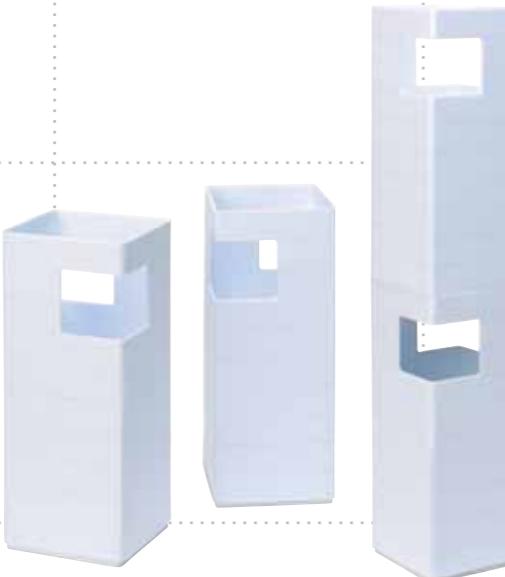


灰皿

切り抜かれた日常に美しさ、楽しさが見えてくる。
素材:耐熱プラスチック、または耐熱シリコン樹脂を使用。



f.a.t Interior & Product Design
「心に深く響くないじり」をテーマとするモノづくりで、内装設計から家具や照明、家電製品までをゆるく、熱くデザイン提案するチーム。



柱になるゴミ箱

ゴミ箱を重ねることにより、場所を取らず、美しい柱が出来上がる。高さは50センチ。5センチのラインにより、ゴミ出しの大きさの確認用になる。積み重ねた状態でも横からゴミが入れられる。重ね方や並べ方でいろいろな置き方が楽しめる。



浅野泰弘 Yasuhiro ASANO
1979年株式会社浅野デザイン研究所設立。88年イタリアミラノのドムスアカデミー修士課程にてマスター取得。97年富山プロダクトデザインコンペグランプリ。2000年、01年同コンペデザイン賞受賞。03年Gマーク賞。01年～05年「Milano Salone Satellite」出展。

Wine Rack

ワイン好きからマニアの人まで、本数、場所に合わせて自由に組み替えられるシステムワインラックの提案です。



芦田秀一 Hidekazu ASHIDA
1969年大阪府生まれ。92年東京造形大学デザイン学科卒業。2005年ASHIDA DESIGN設立。98年リビングデザインセンター第1回被賞デザインコンペ入賞、01年第1回デザイン・ビジネス・パッケージコンペ優秀賞、02年リビングデザインセンター第7回リビングデザインコンペグランプリ、05年第1回セキスイプロダクトデザインコンペグランプリ等。



Wine glass & Decanter

大勢の仲間が集い楽しく飲むワイン。男女が二人っきりで語らいながら飲むワイン。1人、至福の時を味わいながら飲むワイン。ワインにはさまざまな味わいがある。今回の商品は、こだわりあるライフスタイルを過ごす方々が、気に入ったインテリアと家具に囲まれ、自分でセレクトしたワインを1人楽しむ。そんな、大切な時を共有する器として提案する。



菅野 傑 Suguru KANNO
有限会社スクルデザイン代表取締役。1989年通商産業省選定商品グッドデザイン賞、89年東京発明展東京都知事賞、90年通商産業省選定商品グッドデザイン賞、94年名古屋国際デザインコンペ二席入賞、95年富山プロダクトデザインコンペ大賞、2000年ベターリビングコンペ優秀賞、01年アメリカSPIニュープロダクトデザインコンペ部門賞。



Rebirth cup

リサイクル過多となっている発泡スチロール容器の廃棄物を原型とし、砂型の中に直接埋め込むことで鋳造の消失鋳型とする再生方法のシステムデザイン。1つずつ異なる原型を使用するため、使用や廃棄の時にできた凹凸や痕跡が形となって残り、クラフト製品のように様々な表情の成形品が生まれます。発泡スチロールより強度や耐久性を有するため、さまざまな用途の器へ展開でき、原型のバリエーション展開も容易です。



小野里奈 Rina ONO
1975年宮城県仙台市生まれ。97年東北芸術工科大学生産デザイン学科卒業。建築設計事務所等勤務を経て同大学院修士課程入学、在学中スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学へ留学し、2001年修士課程修了。02年より東北芸術工科大学生産デザイン学科助手。



OWL originative Wearable light

OWLとは夜行性の猛禽類「梟」のことですが、良く知の象徴として扱われます。また英語のowlには、「夜更かしする人」という意味もあります。眠れない夜のための、眠らないブックカバー「OWL」の提案です。



山中祐一郎 Yuichiro YAMANAKA
㈲S.O.Y.建築環境研究所代表。1972年栃木県生まれ。東京造形大学卒業後、渡英。A.A.School of Architecture。内藤廣建築設計事務所を経て、99年S.O.Y.建築環境研究所を設立。99年富山デザイン賞、2002年Gマーク(商品部門)、04年Gマーク(建築部門)。

紙と金具のゴミ箱

身のまわりのモノは、今たまたま自分の手もとに巡ってきた「物質」であり、またそれは循環しているということを感じさせるような、リサイクル可能な「ゴミ箱」。デザインされた「仮説」を手もとに置いてみる。

2段階のリサイクル

- 1.交換&リサイクル可能な段ボール。
- 2.金属のジョイント金具は段ボールを替えるとまた使える。



福間祥乃 Yoshino FUKUMA
1974年生まれ。98年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。2000年同大学院修士課程修了。02年東京大学大学院学際情報学府佐々木正人研究員課程修了。05年現在、同博士課程在籍。デザインは環境を作ることと感じアフォーダンス(生態心理学)の観点から街にある視覚情報の研究をする。

Paperweight

金を連想させる、シンプルで美しいペーパーウェイト。楽しいコミュニケーションが生まれる商品をテーマにしました。生産は、真鍮やアルミの鋳物で成形し仕上げ加工後、純金メッキを施します。真鍮の場合、素地を生かした表面処理も考えられます。富山の職人の丁寧な仕上げと何処までもシンプルで静かなフォルム、その静寂から香り立つゴージャスが、無類のたたずまいを生み出します。



清水久和 Hisakazu SHIMIZU

1964年長崎県諫早市生まれ。桑沢デザイン研究所・インダストリアルデザイン科卒業。現在はキヤノン㈱にてプロダクトデザイナーとしてIXY DIGITALなどをデザインしている。98年にはSABO STUDIOを設立し、オリジナル製品の開発やフリーのデザイナーとしても活動中。第12回桑沢賞受賞。



tripod

3本のガラスチューブで構成されたシンプルなフラワーベースです。保持パーツは樹脂またはアルミニウムでの製作を前提としています。ガラスチューブには一般的に流通しているφ18試験管を流用しているためコストダウンが可能であり、コルク栓を用いればスパイス等を保存しておく密閉容器として使用できます。



西川 学 Manabu NISHIKAWA

1971年大阪府生まれ。94年神戸芸術工科大学プロダクトデザイン学科卒業後、株式会社ユニオンにて建築金物の設計およびデザインを担当。現在、神戸芸術工科大学プロダクトデザイン学科助手。家具・雑貨のデザイン・制作を中心に活動中。

Cheese Grater

「大切にしたい美しいデザイン」というテーマのもと、日本の伝統工芸の正確さと技術を受け継ぐマイスターの情熱を、商材としていかに産業と結びつけることが可能かを考え、高岡の地場産業である銅と漆の製法を取り入れた、多くのデザインスタイルを行いました。もっと身近に高岡の製品を使って欲しいとの思いから食卓周辺のプロダクトを考えるに至りました。



高田晃一 Koichi TAKATA

1973富山県高岡市生まれ。宝塚造形芸術大学プロダクトデザイン科卒業。高岡へ帰省し、仏具メーカーである株式会社高田製作所にて銅・CNC旋盤仕上など専門職に就く。2005年高岡銅器の技術を用いたアルミ製花瓶のブランド「fiorichiari(フィオリキアリ)」を立ちあげ欧州市場で販売。

TANZAKU

課題を頂いて最初に頭に浮かんだのが、ハイヒルの銅器プレートでした。このプレートは、すでにデザインされているものであり、その「素材」「着色技術」の存在感が生かせるよう、あえて板に穴を開けただけのシンプルなデザインの花器にしてみました。歴史に残るような美しいデザインは大切です。しかし、それにはこうした伝統や技術という裏付けが必要なのではないでしょうか。



下尾和彦 Kazuhiko SHIMO
下尾さおり Saori SHIMO

1997年家具工房「シモンズ」設立。2004年「shimo design」始動。工芸都市高岡・クラフトコンペ98年グランプリ、00年同コンペ審査員賞、01年同コンペグランプリ、02年同コンペ銀賞、03年同コンペ奨励賞。04年朝日現代クラフト招待出品、富山プロダクトデザインコンペティション招待出品、松屋銀座「それぞの間」展。

Your Priority

「仕事の優先順位」を明確に示してくれるのがこのペーパーウェイトです。このおもりは、今までとはまったく違った使い方をすることにより、仕事の「〆切りまでの残り時間」をわかります。高さの違いが、[day]の文字とともに「残り時間」を示すしくみです。最近見なくなった台ばかり増おもり、この「大切にしたい」「美しい」カタチをアレンジすることによって新たな存在価値を持つことが出来ないか、と考えました。



笹川寛司 Hiroshi SASAGAWA

1973年8月24日新潟県生まれ。96年北海道東海大学芸術工学部デザイン学科を卒業後、渡伊。98年より建築デザイン設計事務所Studio De Ponte & Gatta勤務。事務所に勤務する傍ら、2002年より個人活動を開始する。04年4月より北海道東海大学芸術工学部くらしデザイン学科講師。



hole in the dish

一見、灰皿っぽくないフォルム+リバーシブル仕様で裏返すこともでき、喫煙家にとってタバコの存在がうまくカモフラージュできます。中央の穴の中に灰と吸い殻をボトロと落として使用するので、屋外のテーブルで風が吹いたとしても決して灰が飛びません。3枚の皿を組み合わせたような洗い易い形です。



金山元太 Genta KANAYAMA
1964年東京生まれ。85年桑沢デザイン研究所卒業。

金山千恵 Chie KANAYAMA
1972年金沢生まれ。95年大阪芸術大学卒業。
2001年桑沢デザイン研究所卒業。
04年「genta design」設立。人々のちょっとした仕草に新しい時代のデザインを思い浮かべたりします。人に心地よく、楽しく、使ってもらえるデザインを目指しています。



GYRATION

ステンレスの盤面上を回転する3つのボールによって構成された、時間を読むためではなく、眺めることによって時間と空間を触知するための時計です。3つのボールはそれぞれ外側から時・分・秒に対応し、中心に近いボールの方が早く回転します。このオブジェクトを眺めることによって、銀河系の運動から電子の運動までを内包する普遍的な「美しいデザイン」を想起して欲しいです。



寺田尚樹 Naoki TERADA

1989年明治大学卒業。94年AAスクール(イギリス)修了。99~2003年明治大学非常勤講師。02年テラデザイン一級建築士事務所設立。ゴキブリの家から入の住む家まで、プロダクトからインテリア、建築にいたる様々なスケールにおけるデザイン活動を展開する。



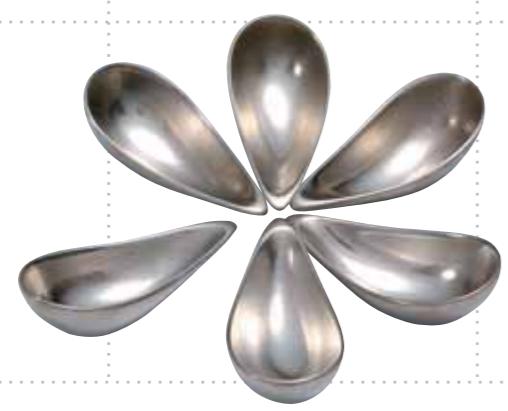
t/umami

つまむ人の手の大きさ、性格や体調によって量が異なる「ひとつまみ」「少々」の加減はとても曖昧で、正確に説明できない単位／尺度である。それと同時に、食べる人の表情や雰囲気から判断した無意識な指先の加減が、料理を美味しいしているのも事実である。全てを数値化してしまう時代だからこそ、この美しい感覚を力タチにする価値がある。



佐藤才オキ Ooki SATO

1977年カナダ生まれ。97年㈲アジール(現・nendo)設立。2000年早稲田大学卒業、稻門建築賞受賞。02年同大学大学院修士課程修了、デザインオフィス「nendo」発足。



ちりれんげ

奇をてらった造形ではなく、ただ真面目に蓮華の花弁の形に近いレンゲを作る事で生活雑器としてのレンゲのあり方をもう一度考えた。新たな使用感や価値観を生み出すために、自由度を持たせたゆるい感覚で制作した。



斎藤大介 Daisuke SAITO

1979年栃木県生まれ。2000年東北芸術工科大学生産デザイン学科卒業。01年同大学研究生。04年栃木県農業技術支援センター技術研修生終了。プロダクト、セラミックデザイン。現在益子焼、多羅窯TATARAデザインプロジェクト進行中。ハンドメイドでのセラミックによる食器、身の回りのモノ等制作。



DESIGN SEMINAR

デザインセミナー

会期:2005年10月26日(水) 会場:ホテルニューオータニ高岡4F(瑞竜)



(有)nendo
佐藤オオキ Ooki SATO

アッシュコンセプト代表取締役
Hideyoshi NAGOYA 名児耶秀美

選考会終了後、審査員の名児耶秀美さん、若手クリエーターの中で、いま最も注目を集めている佐藤オオキさんを講師に迎え、デザインセミナーを開催しました。

nendoのデザインワークとは?

佐藤オオキさんは、最近の仕事の中からインテリアを中心にピックアップ。コンセプトや制作の経緯などをお話をいただきました。JCD賞で優秀賞を受賞した「絵本の家」は、プライバシーを保つ居住空間と気軽に立ち寄れる図書館を両立した住宅兼図書館。外側を本棚でぐるりと囲んだ斬新なデザインが目を引きました。「リングサイトで格闘技を観戦する気分」を演出した手打ちうどん店の改装事例では、厨房の中にお客さんを招き入れ、店員のキビキビした動きを五感で味わえる空間デザインが、参加者からの大きな関心を集めました。このほか、石のタイルに木目を印刷し、木でも石でもないテキスチャーを使ったブランドショップ、人気アニメ、ガンダム展のエキシビジョンデザインなどが紹介されました。

名児耶さんは「日本のデザイナーはピカイチ!」と語り、「僕の役目は、日本のデザイナーと日本の優れた技術を世界に伝えること」とエールを送りました。このほか、ものづくりの現場で「できない」の壁にぶつかった時には「チャンス到来!」と発想を転換させること、「たとえ失敗しても、リカバリーすれば失敗にならない。小さな失敗が多いほど大きな成功がある」ということ、さらにフランクフルトメッセで受けた「ジャパニーズデザイン、ジャパニーズクオリティー」という最大級の賛辞にふれ、「もっと自信を持ち、日本をバリバリ引っ張って行って欲しい」とメッセージしてくださいました。

海外と日本では違う、ものづくり。

名児耶さん、佐藤さんの講演の後は、審査員の方々を交えたフリートークに。北欧やイタリアのメーカーと組む機会の多い佐藤さんの「日本のメーカーからはブリーフィングが全然ない。海外のメーカーはかなり細かいリクエストを提示して、何かいいデザインがあつたらくださいと投げかけてくれる」という話がきっかけとなり、「ものづくりに対する海外と日本の大きな違いとは?」という話題へと発展。ものづくりを取り巻く環境、評価の違いについて、さまざまなディスカッションが行われ、ジャパニーズデザインの第一線で活躍する方々から、たくさんのこと学んだセミナーとなりました。

日本のデザインは、ピカイチ!

名児耶さんは「アッシュコンセプトって何?」をテーマに、ものづくりの考え方、「+d」ブランド、世界から見た日本などについて紹



授賞式・交流会

会期:2005年10月26日(水) 会場:ホテルニューオータニ高岡4F(鳳凰)

人と人、そしてデザイン。

さらに広がるコミュニケーションへ。

公開で行われた最終選考会、デザインセミナーの終了後、プロダクトデザインコンペティションの授賞式およびデザインウエーブイン富山の交流会を開催。授賞式では、とやまデザイン賞の澄川伸一さんと準とやまデザイン賞の三浦秀彦さん、大友学さんに石井隆一富山県知事デザインウエーブ開催委員会会長から賞状と副賞が、デザインシップ虎には審査員を代表して近藤康夫さんから審査員特別賞が贈られました。交流会は、石井隆一富山県知事からの挨拶、そして橋慶一郎高岡市長からお祝いの言葉をいただいた後、竹平栄太郎(社)富山県デザイン協会理事長のご発声による乾杯でスタート。会場となったホテルニューオータニ高岡・鳳凰の間には、富山県、富山市、高岡市、財団、共催団体、商品開発研究会、ご協賛団体各社、企業、県内外のデザイン関係者、デザインコンペティショ

ン指名デザイナーのほか、デザインの道をめざす学生たちも多く集まり、200名を超える方々が一堂に介する盛大なセレモニーとなりました。緊張の連続だった選考会を経ての交流会ということもあって、会場は終始和やかな雰囲気。お互いの健闘を讃え合い、それぞれの作品について語り合う指名デザイナーの皆さん、第一線で活躍するプロダクトデザイナーに緊張の面持ちで駆け寄る学生たちなど、どのテーブルでも、職種や業態のボーダーを越えたコミュニケーションが広がっていたようです。デザインセミナーでの、「人生は一度きり。もっと楽しく、もっとフレンドリーにデザインを楽しんではほしい」という名児耶さんのメッセージが、きちんと届いていることを感じさせてくれた交流会でした。

富山から全国へ、そして世界へ。ここで広がったコミュニケーションが、デザインの新たなウエーブとなることを期待しています。ご参加いただいたご来賓、関係各位、一般参加の方々、そして、デザインウエーブイン富山を支えてくださった数多くの方々に誌面をお借りし、改めて感謝いたします。本当にありがとうございました。



WORK SHOP

ガラスとアルミのプロダクト

富山県の主要産業であるアルミとデザイン分野でも多用されているガラス。それぞれの素材を使い、新たな商品の可能性を創出するワークショップ。今回は、外国からの参加者を含む計8名での開催となりました。制作前の打合せでは「既成概念や固定観念を破壊し、新たな可能性を創出してほしい」というアドバイスがあり、ガラスチーム、アルミチームに分かれて制作を開始。普段のデザインワークでは体験できない発見や予想外の展開に出会いながら、オリジナリティにあふれた造形を完成させました。



ガラス造形

ガラス造形は炉の中で溶けたガラスを取り出し、刻々と変化する温度、硬度と戦いながら形を作り上げていく作業です。参加デザイナーは富山ガラス工房の協力を得て、ガラス造形に挑戦。瞬時に変化するガラスを操る難しさ、偶然から生まれる造形の美しさなどを実感しながら熱いガラスに独自のデザインを吹き込みました。

アルミ造形

アルミ造形はデザインスケッチとともに木や発泡スチロールで立体化した原型を砂で包み、炭酸ガスを吹き付けて固めた鋳型を製造。そこに溶かしたアルミを流し込み、冷まして型を外し、研磨して仕上げていきます。参加デザイナーは原型が金属に置き換わるまでの過程を体験し、アルミという素材の可能性を模索しました。

アドバイザー講評



Yasuo KONDO
近藤 康夫
インテリアーアーキテクト

例年、ガラス造形はデザイナーの精緻な図面を工房の皆さんに渡した時からバトルが始まり、図面に合わせてどう創るかで、とても苦労されていました。でも今年はどこで止めたら自分で一番納得できるのかという考え方で自然に取り組まれていました。前のめりでギンギンにモノづくりに対峙するではなく、落ち着きや癒しが加味されたデザイン。そんな姿勢を感じました。アルミ造形も制作者の性格が色濃く出ていて、とても興味深かったです。特に椅子は意外でした。ついつい創れる範囲を頭に描いてしまいがちですが、スケール感みたいなものも重要視していくと、もっとおもしろいものができると思います。



AURA

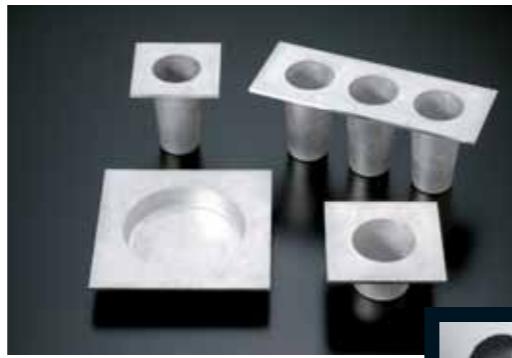
何もない空間に椅子が一脚。そこには明らかにオーラがたたずむ。椅子は小さな建築と言われるが、私は椅子に人の気配を感じる。命を感じる。今回は、エレガントで、やさしく、気品があり、優雅で、それでいて凜とした強さを感じる女性のたたずまいをコンセプトに、アルミ铸造で椅子をデザインしました。砂型からの铸造は初めての経験で、仕上げにかなり時間を要したにもかかわらず、なかなかイメージ通りにはいきませんでしたが、「アートとしての製品デザイン」を目指し、今後も続けて研究していきたいと思っています。



浅野 隆

Takashi ASANO

1959年石川県生まれ。81年金沢美術工芸大学工業デザイン専攻卒業。いすゞ自動車株式会社にてカーデザインに従事。主にエクステリアデザインを担当。代表作PA-NERO。87年フリーランスデザイナーとして独立。セーターショー向けコンセプトカードデザイン制作等を主な業務とする。92年プライベートでソーラーカーチームを結成、自ら開発制作した車両で各地のレースに参戦、入賞多数。95年~金沢美術工芸大学デザイン専攻助教授。



pocket world

カタチを構成する要素に変化を与え、イメージをがらりと変える。そんな発想からスタートしました。フォルムを確立する過程で、広げてみたり、つぶしてみたり、キュッと伸ばしてみたり。個性と素材感を引き出すために、クールな造形を試み、それぞれの世界を持つた器たち「pocket world」をシリーズとして制作しました。



内藤裕孝

Hirotaka NAITO

1970年神奈川県生まれ。95年北海道東海大学大学院芸術学研究科生活デザイン専攻修士課程修了。95年高岡短期大学産業造形学科助手。99年~2000年文部省在外研究员としてCarl Malmsten School(スウェーデン)に研究留学。05年富山大学芸術文化学部助手。



STAMP! - PAPERWEIGHT & TRAY -

アルミ铸造である意味とは?アルミの魅力とは何か?それは手にしたときの心地よい重量感、しっとりとした艶っぽさではないだろうか。それを日々の中で味わえる存在とは。手にして移動する事で機能するものは?重さが役に立つものとは?そこから導きだされたペーパーウェイトという在り方。そしてそれが在る空間から立ち上がる行為。筆記用具を使用する中から立ち上がる動作等。それらを受け止めるかたちとは?そこから導きだされたこのかたち。暮らしの中から立ち上がるその輪郭が重なり合うとき。美しい響きがうまれるのでないでしょうか。



五十嵐広威

Hiroi IGARASHI

1977年東京生まれ。2001年多摩美術大学美術学部立体デザイン専攻卒業。04年富山プロダクトデザインコンペ佳作、04年富山プロダクトデザインコンペ准賞とまデザイン賞、デザインコンペ海南 the final大賞、05年シャチハタニューブロダクトデザインコンペ深澤賞。



Flare

アルミという素材が持つ美しさや特性を生かし、センターピース(テーブルの中央に置く装飾品)をテーマにキャンドルスタンドと鍋敷きのセットをデザインしました。2つを組み合わせることで、シンプルなキャンドルスタンドが装飾を帯びた1つのオブジェクトとなります。また、鍋を置くためのフラット面はキャンドルの炎を幻想的に反映するミラーとなり、食卓に彩りを与える人々の回転を演出します。



舟橋慶祐

Keisuke FUNAHASHI

1975年愛知県生まれ。99年名古屋芸術大学美学学部ベースデザインコース卒業。現在、オフィス家具メーカー勤務。2002年マーナデザインコンペ佳作、04年富山プロダクトデザインコンペ準賞とまデザイン賞、デザインコンペ海南 the final大賞、05年シャチハタニューブロダクトデザインコンペ深澤賞。

WORK SHOP

ガラスとアルミのプロダクト



流線型2005-夏

今回は、4つの力(熱・呼気・遠心力・重力)をイメージで牽引し、いかに作品を完成させるか…という通常の吹きガラスのプロセスを選択しないことを決めてスタートさせた。「ホットワーク中、膨らんでいくガラスに極力手を出さない」ことを最初のルールとして、あとは溶けたガラスの量や、色ガラスの位置と大きさをコントロールした以外は「なりゆき」に任せ、素材としての中空ガラス形状をいくつも作成した。茄子のようなフォルム、泪型のフォルム…。それぞれに連想が膨らむ素材を、この形はどこで切ると美しさが際立つんだろう…。素材を前に初めて形状や用途のイメージを膨らませ、コールドワークにより切り出し、ガラス器としての用途を与えていった。



中林鉄太郎

Tetsutaro NAKABAYASHI

1965年東京生まれ。88年桑沢デザイン研究所リビングデザイン科卒業後、株式会社黒川雅之建築設計事務所に入社。プロダクトデザイン部を担当。97年同事務所を退社、独立しツタロウデザインを設立。2005年より、日大藝術学部IDコース非常勤講師。JIDA会員。



テープカッター

ガラスで何が作れるか、身の回りのもので何がガラスで出来ていれば面白いかと仕事場を見回した末、テープカッターを作ることにしました。しかし実際にガラスに触れ、当初頭の中にあったイメージと目前で出来てくる形のギャップがあまりにも大きく、ガラスの造形の難しさに戸惑いました。こっちは伸ばせばあっちが曲がる。上を太くすれば下が細くなる。一発勝負の真剣勝負。なんとかスタッフの皆さん之力をかりて、重力によって垂れ下がる自然な形を定着させた、愛らしいフォルムを持つテープカッターが生まれました。



福田秀之

Hideyuki FUKUDA

1965年兵庫県生まれ。89年京都市立芸術大学卒業、田中一光デザイン室入社。99年スタジオ福テ设立。世界ポスタートリエンナーレトヤマ、ラハチボスター、ビエンナーレ、ニューヨークタイプディレクターズクラブ、ソフィア国際ステンポルターロンナーレ等入選。現在、東京造形大学非常勤講師。



ストライプクラック

ストライプ状のクラックが連続する力強い表情の器
スパイラルクラック

スパイラル状のクラックが連続する繊細な表情のランプシェード

アイスマウンテンクラック
ガラスの半球に氷山がのこったような表情のオイルランプ

ガラスが割れたり欠けたりした時の表面に日頃からガラスらしく美しい表情があるように感じていました。今回のワークショップではそんな『ガラスらしく美しい表情』を追いまることをテーマに臨み、3つの異なる表情に出会うことができました。



夏目知道

Tomomichi NATSUME

1966年名古屋市生まれ。89年愛知県立芸術大学美術学部卒業。89年~99年近藤康夫デザイン事務所勤務。99年より、デザイナー「ナツメトモミチ」として独立。



Gravity

溶けた状態のガラスは、まるでハチミツのように流れ、落ちる。私は素材の持つ流动性と重力の働きを表現した花器を作りたいと思いました。



ホセ・A・カンツー・グスマン

モンクレール総合大学工業デザイン専攻卒業、現在VITRO GLOBAL DESIGN(民間のデザイン事務所)デザイナー。ソフトドリンクのメキシコ向け商品のパッケージデザイン等を手掛け、デザイン開発に伴う市場調査やSDによるスケッチ、アニメーション等の制作を行っている。JICA(国際協力機構)研修員として来日。

New Paradigm Of Italian Design

イタリアデザインのニューパラダイム展



富山県の企業と新商品開発でコラボレーションした経験を持つ、現代イタリアで活躍する4組のイタリア人デザイナーの作品を紹介します。ミキ・アストリ、ファビオ・ボルトランニ、デザイントリップ、ガブリエル・ペッツィーニは、それぞれ1988年から91年の間にイタリアの大学で建築やデザインを学び、現在、国内外で精力的に活動しています。彼らがデザインを学んだ時期は、80年代のイタリア・アヴァンギャルドデザインやポストモダンデザインの興隆期であり、60年代の高名な建築家やデザイナーに加えて、世界中からイタリアへやってきた優秀な若い才能が次々と開花した時代でした。しかし彼らがデザイン活動をスタートさせる頃には、一時期の熱狂的な潮流は収束に向かい、イタリアは一変して静かな時代に突入します。またグローバル化や多文化主義の影響で、デザイン活動の拠点は世界中へ広がり、彼らも一定期間フ

ランスやベルギーそして日本に滞在しデザイン経験を積んでいます。このような背景の中、今回紹介する4組のイタリア人デザイナーの作品は、80年代に認められていた「イタリア人デザイナー」であることの優位性が失われたことによって生まれた、現代イタリアデザインの在り方をピュアに表現しています。彼らの作品を通じてイタリアデザインのニューパラダイムを感じ取っていただければと思います。

会期:2005年10月26日(水)～11月7日(月)

会場:富山県産業高度化センター展示室

主催:デザインウエーブ開催委員会

作品協力:ヤマギワ株式会社／株式会社ニチベイ／川嶋工業株式会社／EntreX Inc.

New Paradigm Of Italian Design

イタリアデザインのニューパラダイム展



Miki Astori

ミキ・アストリ
1965年生まれ。91年ミラノ工科大学建築学科卒業。92年～93年フィリップ・スタルク事務所勤務。94年に個人事務所、ミキアストリ設立。

ミキ・アストリは鋭く時代を読む目を持ち、それに対応する柔軟性を備えたデザイナーである。建築の仕事をしていた両親の影響もあって大学では建築学を学んだが、フィリップ・スタルク事務所で積んだ経験を通して、プロジェクトごとに進められるプロダクトデザインの魅力に目覚めたという。現在は「機能的かつ合理的であること」をベースに様々な要素を組み立てながら、様々なプロジェクトを進めている。ドリアデ社との仕事を通してイタリアデザイン産業界の厳しさを知っているアストリが、今後のプロダクトの可能性を考える時、①新しいものを生みだしていくこと、②機能性を備えているもの、③生産のバランスがとれていることは、はずすことのできない重要な要素だそうだ。



カフェテーブル
富山・ミラノデザイン交流事業
ミラノワークショップ・モックアップ
高田製作所



Sandal, Muzafir, Appam
ドリアデ社



Tikka Table
ドリアデ社



Alchemilla
ドリアデ社



Designtrip

(Nunzia Paola Carallo & Jacopo Grandis)

デザイントリップ
ヤコボ・R・グランディス●1969年イタリア・ローマ生まれ。95年Istituto Europeo di Design卒業。2003年にカラッコとデザイントリップを共同設立。
ヌンツィア・パオラ・カラッコ●1962年生まれ。91年フレンツェ大学大学院工業デザインスター取得。91年ドムスアカデミー・デザインマネジメント科マスター取得。96年から日本の企業で活動。2003年にグランディスとデザイントリップを共同設立。

デザイントリップはキッチン用品を中心にイタリアや日本そして台湾の会社にデザインを提供しているデザインユニットであり、デザインとコミュニケーションをパオラがテクニカルをヤコボが担当している。「職人の技を大事にすること。そして素材の特性を活かしながら、どのようなプロダクトができるのか無限の可能性を探っていくこと。」をデザインフィロソフィーとして掲げ、時代性を大切にしながらポップで有機的な作品を作りだしている。特にシリコンの耐熱の特徴を活かしたケーキ型のシリーズは彼らのデザインフィロソフィーを実現した代表作である。



I LOVE CAKE ring mould
GUZZINI社



I LOVE CAKE large heart cake
GUZZINI社



PETRA / 2003
GEDY社



TRI-FUN / 2002
SUNCRAFT(川崎工業株式会社)



Notebook with Handle / 1997
Authentics社

Triangle / 1999
Authentics社



Delux / 2005
プラスティック製カトラリー
Pandora社 ※Donata Porucchinlと協働



BucatinL / 1998
洗面所用小物
Agape社



Fabio Bortolani

ファビオ・ボルトローニ
1957年モデナ生まれ。フィレンツェ大学建築学部卒業。C.Leonardi&F.Stagi建築事務所勤務後独立。2001年コンバッソードー賞入選。Agepe、Alessi、Cappellini、Driadeにデザインを提供。受賞に、ウディネ・トップテンプロモーセディア、セレクションオボス、デザインプラス・フランクフルト他。

ファビオ・ボルトローニは、建築家・デザイナーという肩書きに加えて、すばらしい画家でもある。デザイン画を水彩で描くという、イタリア建築界の伝統を受け継ぐ彼のデザインは、シンプルで美しく、機能的でありながら、彼の人柄そのままに「とても気楽で夢見がち」だ。デザイン活動の中で、実際に人が使う製品になることが重要だと語る彼は、デザインが試作で止まってしまうことに納得できないという。その一方でマーケティング偏重の昨今の風潮も好きではないそうだ。今夏、彼は富山で様々な企業を見学し、クオリティの高さや工場の稼動率に感銘を受けたが、今後はそこに「あそび」を取り入れることで、富山産業界の拡大につながるのではと考えている。



Dancer stool / 2004
Max design社



Moving / 2004
Max design社



Double / 2003
Area Plus社



Match radio / 2002
Area plus社



Gabriele Pezzini

ガブリエル・ペッツィーニ
フィレンツェISIA(工業デザインインスティチュート)に学ぶ。フランスAllibert社勤務後独立。ミラノ工科大学、ドムスアカデミー、エコール・ド・ボザール、ロードアイランドデザインスクール他などで教鞭をとる。

ガブリエル・ペッツィーニは、デザイナーのとしての自分を「生産のためのデザイナーではなく、アーティスティックな部分を大切にするデザイナー」であると分析する。フィレンツェのデザインスクールでエンツォ・マリの影響を大きく受けながら学んだ後、フランスの大量消費のために大量生産する大きなメーカーで家具デザインの仕事に従事した。そこで経験は実績として素晴らしいものであったが、自分のデザインフィロソフィーを実践するには組織が大きすぎたと語る。「私は、言葉では言い表せない何かをデザインに込めたいと常に努力しています。そしてそれを使う人の行動や生活、気分を良い方向に変えることができたらと思っています」。

ものづくり見学ツアー

10月27日、デザインウェーブのコンペティションに参加したデザイナーを対象として「ものづくり見学ツアー」を実施しました。このツアーは県内企業のものづくり現場を見学し、様々な加工技術や素材の持つ特性を新たなデザイン提案に活用してもらうことを目的としています。

今回は、富山ゴーレックス(株)、株能作、勝興寺を見学しました。



スケジュール	
9:00	高岡を出発
9:20~10:00	富山ゴーレックス(株)見学
10:20~11:20	勝興寺見学
13:00~13:40	(株)能作見学
14:00~15:00	デザインウェーブ展示会見学
15:00	解散



富山ゴーレックス(株)

シリコンゴム成型を手がけている富山ゴーレックス。富山プロダクトデザインコンペティション2002に出品されたガムフックは、05年1月から量産を開始。現在、2作目となるドアストッパー（同コンペ入賞作品）の生産も行われています。工場内では実際の作業工程見学のほか、リモコンスイッチのラバー、エステ用マスク、冷蔵庫の抗菌シートなどの製品も紹介いただきました。参加者の皆さん、シリコンゴムの素材特性、試作予算や日程について興味深く質問していました。



株能作

能作は創業以来、茶道具や花器、インテリア商品などを通じて伝統的工芸品である高岡銅器の魅力を今に伝え続けている銅器製造会社。鋳物に対する既存の枠を超えた新たな分野にも果敢に挑戦し、異業種交流やデザイナーとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる企業です。最近は錫製の商品（照明、キャンドルホルダー、器など）にも力を入れているそうで、参加者の皆さんも関心度も高く、試作に関する具体的な質問も多く寄せられました。



勝興寺

勝興寺は、寛政7年（1795年）に西本願寺本堂を模して建設。約40m四方の巨大な建造物は、地方においては破格の規模を誇ります（国宝・重要文化財建造物のうち、全国で8番目）。この日は宝物展が開催され、武田信玄、豊臣秀吉、前田利長等の文書をはじめ、大名道具・公家調度品など、貴重な歴史資料を見学。伏木觀光ボランティアの案内で勝興寺に伝わる七不思議や平成大改修の解説を聞きながら、重要文化財の神髄にふれるひとときを過ごしました。



デザインウェーブ2005イン富山

ツアーの最後は、富山県産業高度化センターで開催中の「デザインウェーブ2005イン富山」へ。全国各地のデザイナー26組による指名コンペティション形式で提案された作品の数々をはじめ、富山の企業とコラボレーションしたイタリアで活躍している4組のイタリア人デザイナーの作品を紹介する「イタリアデザインのニューパラダイム展」、「ワークショップ作品展」などを見学しました。



AIDEX

こころを結ぶ、
コミュニケーション空間の創出。



営業内容

●ディスプレイ

文化施設・博物館・展示館
博覧会・展示会・イベント
式典

●商業施設

環境デザイン・建築設計
CI・VI・ブランディング
複合商業施設・SC・専門店

●サイン

サインシステム
ネオンシステム
大型カラー画像システム

●コミュニケーション

広告・宣伝計画
開発計画・コンベンション
コンピュータソフトウェア開発

株式会社宝来社

本社 富山市南央町3-28 TEL076-429-1900(代) FAX076-429-6151(代)

東京・石川・福井 一級建築士事務所登録／富山・福井

URL <http://www.horaisha.co.jp> E-mail mail@horaisha.co.jp

N e x t S t a g e . . .

